

市の調査

一方的な結論 への疑問

特別調査

昨年3月、市が行った「気流調査」には種々の問題点・疑問点があります。以下、それをまとめます。

また、市計画局が実施した調査は次の二つです。

- ① 1年間の気象調査
 - ・緑橋付近等の温度、風向、風速の調査
 - ・中京TV東山タワーでの垂直方向の温度分布からの大気安定度調査(逆転層調査)
 - ② 3日間の現地実験
 - ・ノンリフトバルーンによる気流の調査
 - ・方向追跡用ガス(トレーサーガス SF₆)による拡散の調査
- これらの調査結果についての「中間報告」は、大略次のとおり。

・大気が静穏であって逆転層の生成が認められたのは、年間73時間である。しかも逆転層の高さが換気所の有効排出高さより高くなるのは、年間を遡って1~2時間しかない。

・ノンリフトバルーンはほぼ一定方向に流れた。拡散については、70Lモデルを適用すると考え、トレーサーガスの測定結果とよく合致した。

こうした調査結果について検討すると、多くの問題点が指摘されます。

- (1) 1年間の気象調査について
 - ① 逆転層の調査は、中京TV東山タワーの記録を当地にそのまま適用しているが、不相当ではないか。逆転層の生成は地形による影響が大きい。藤巻町

での逆転層の調査が必要であろう。
① 風速1m/s未満を「静穏」と呼んでいるが、その根拠は不明。大気拡散を考えた場合、風速5m/s以下で大気が大気が不安定になると考えるべきではないか。この場合の「静穏」の発生率は非常に高くなる。

② 風向、風速の調査結果を見ると、風のほらほらと乱れている時間帯があり、この時間帯こそ、公害発生危険性が高いと考えられた。当局はこの状態での拡散調査を検討しているだろうか。

(2) 3日間の現地実験について
① 3日間の調査で結論が出たであろうか。前記の気象調査の結果からも、範囲を広げた現地調査が必要。

② ノンリフトバルーンの軌跡図を見ると、300mの地点で高度が落ちている。風の流れが異なる場合にはどのような結果が出たであろうか。

③ 70Lモデルは一般的に、風が弱い時や盆地の逆転層内では適用できないといわれている。この場合当局はどのようなモデルを適用するつもりか。

負向案 (会代表による発言)

- ・なぜ3/14~16という季節風の強い時期に現地実験をしたか
- ・逆転層調査を藤巻町の現地と、という市担当者の要望はあったのか
- ・住民を安心させ得るデータ、資料を提出せよ
- ・市資料の図3-4月時別最多風向風速図の年平均をマクロ的にとらえて「公害の発生、排ガスの拡散を考えた場合、危険性を」と結論づけたのか
- ・静穏~静穏率の測定について
- ・ノンリフトバルーンの軌跡、分析について
- ・70Lモデルについて
- ・その他総合的傾向

研究部の調査そっくり

名古屋の東部丘陵沿い

朝日 64.3.10.

大気汚染のふきだまり

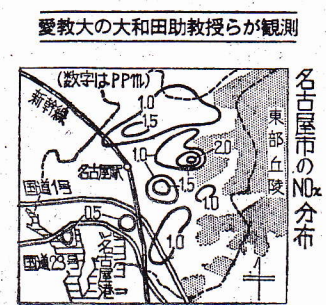
ひどい千種・昭和区

南・西部から風が運ぶ

窒素酸化物

名古屋市内(千種区)の調査結果(数字はPPM)

その結果、名古屋市の東部丘陵沿い(千種区)に、150PPM以上の高濃度を示した。これは、市内の平均値(約50PPM)の3倍に達している。この高濃度は、千種区と昭和区に広がっており、千種区では150PPM、昭和区では100PPMに達している。これは、市内の平均値(約50PPM)の2倍に達している。



大気汚染のふきだまり。その結果、名古屋市の東部丘陵沿い(千種区)に、150PPM以上の高濃度を示した。これは、市内の平均値(約50PPM)の3倍に達している。この高濃度は、千種区と昭和区に広がっており、千種区では150PPM、昭和区では100PPMに達している。これは、市内の平均値(約50PPM)の2倍に達している。

この高濃度は、千種区と昭和区に広がっており、千種区では150PPM、昭和区では100PPMに達している。これは、市内の平均値(約50PPM)の2倍に達している。

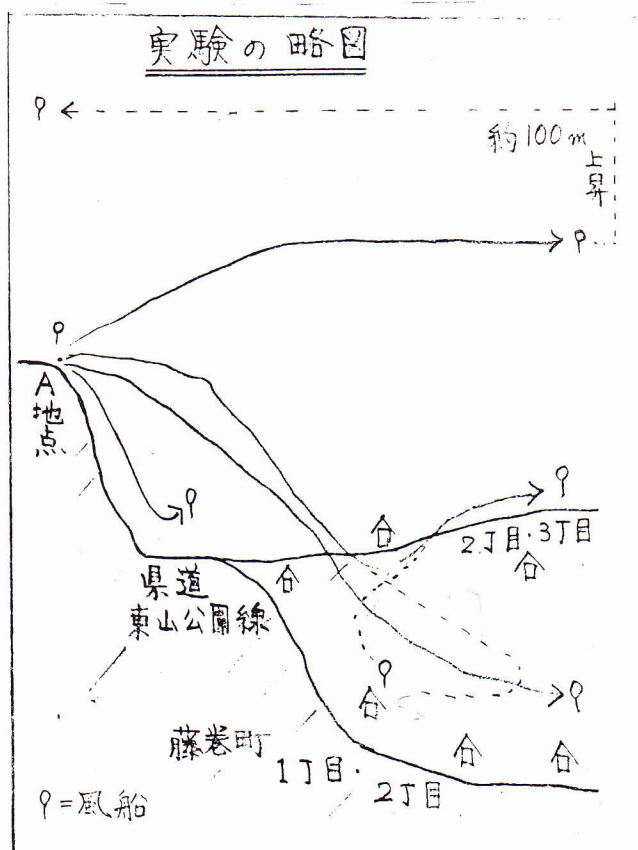
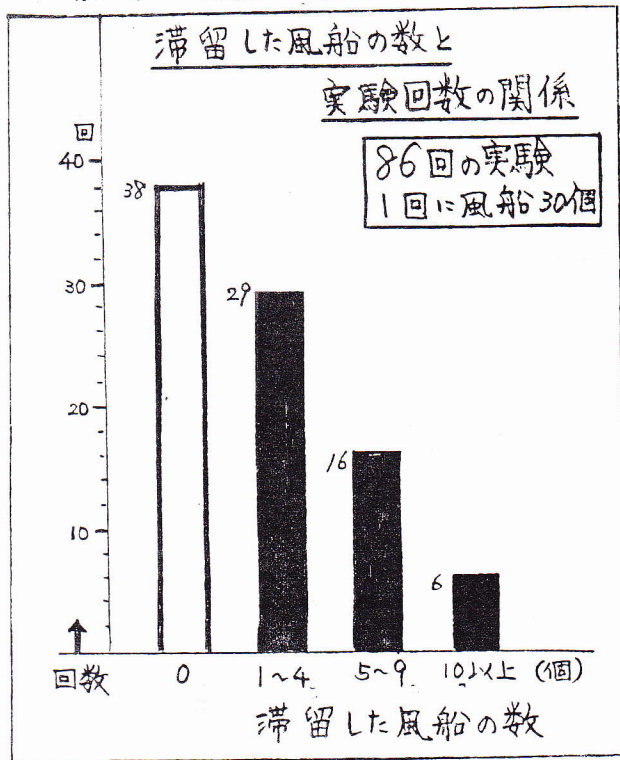
この高濃度は、千種区と昭和区に広がっており、千種区では150PPM、昭和区では100PPMに達している。これは、市内の平均値(約50PPM)の2倍に達している。

藤巻町に排ガスは滞留する

気流調査第3次報告

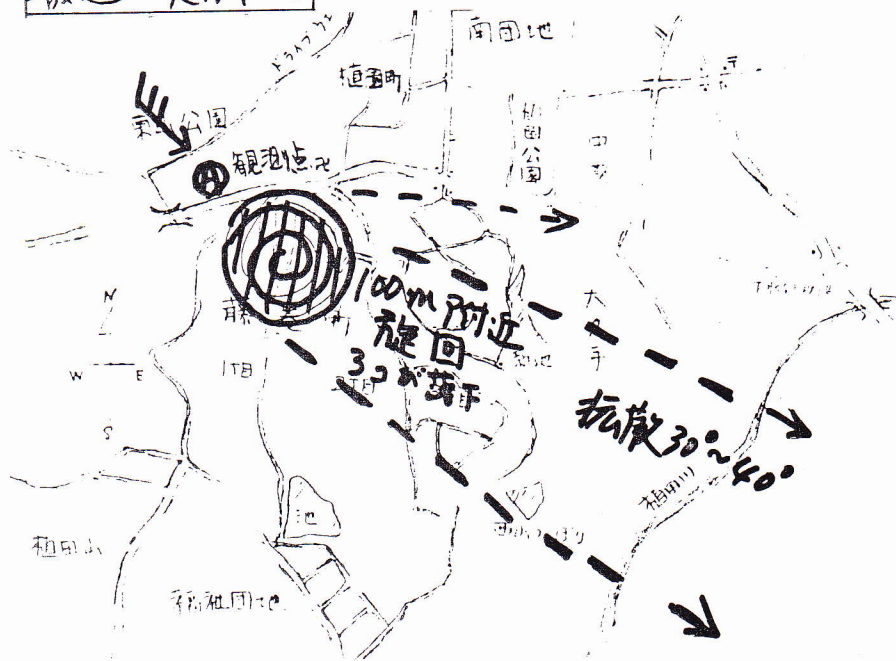
— 研究部 —

風船滞留状況 昭和51年~53年合計



- 実験回数の約56%が藤巻町に風船の滞留が発生する
- 風が強い(4~5m/s)時でも滞留が発生する
- 植田高針線上で急上昇して、まったく逆の風に乗ってA点上空を北西に飛ぶことがある。
- 月に2・3日以上“危険”な日が発生するものと思われる。

最近の実例から



観測日時: 昭和54年3月11日06時15分
 天候: 快晴 気温6.0度 気圧999.8mb
 風向: 北西 風速3~5m 最大10m
 風船飛行状況 (風船30個使用)

風速3~5m 最大10mで7回に分けて飛ばす。高度100~120m附近で上下旋回運動の後、約半は1丁目と2丁目盆地で5~7分滞留。逆風の後は30は地上に落下。その他は風に乗って南東方向へ飛ぶ。一部は3丁上空へも飛ぶ。

割合風の強い日でも1丁目・2丁目に「3.5回以上」がでるものと考えられる